

第1章

いんざい環境特集

「環境」という幅広いテーマの中から、今、特に注目されている分野や、活発な動きのある話題を特集します。

特集 2025 気候変動の影響への「適応」

I 気候変動の影響への適応・緩和

温室効果ガスの増加によって、気候変動が進んでおり、猛暑による熱中症や、集中豪雨による水害の増加など、様々な影響が出てきています。

印西市においても、近年、夏季の猛暑日（日最高気温が35℃以上）の日数がこれまでと比べて増加しています。

このような、すでに生じている気候変動の影響や、将来起こりうると予測される気候変動の影響による被害を回避・軽減させることを、気候変動への「適応」と言います。

気候変動対策は、温室効果ガスの排出を減らす「緩和」と、被害を回避・軽減する「適応」の両輪で取り組んでいくことが必要です。



気候変動による将来の主要なリスク
出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>)

緩和とは？

原因を少なく

2つの

気候変動対策

適応とは？

影響に備える

緩和策の例

節電・省エネ
エコカーの普及
再生可能エネルギーの活用
森林を増やす

温室効果ガスを減らす

適応策の例

感染症予防のため虫刺されに注意
熱中症予防
災害に備える
水利用の工夫
高温でも育つ農作物の品種開発や栽培

緩和と適応

出典：気候変動適応情報プラットフォーム

II 「適応」の取組の例

各分野における「適応」の取組が進められています。

気候変動の影響と「適応」の取組例

分野	気候変動の影響（一例）	「適応」の取組例（一例）
農林 水産業	・農作物の品質低下・収量減少	・作付時期の変更 ・暑さに強い品種の導入 ・品質低下防止のための日よけ設置
水環境・ 水資源	・渇水による水不足 ・湖の水質悪化	・節水・雨水利用などの工夫 ・湖沼・ダム湖・河川などの継続的なモニタリングと水質改善
自然 生態系	・希少な動植物の絶滅リスクの増加	・生態系の継続的なモニタリング ・野生生物の管理 ・外来生物※対策
自然 災害	・極端な大雨などによる土砂災害・浸水被害の増加	・ハザードマップ・避難経路の確認 ・治水安全度向上のためのハード対策
健康	・熱中症や、蚊が媒介する感染症による健康リスクの増加	・水分補給・エアコン使用などによる熱中症対策 ・蚊の発生する水たまりを作らない工夫
産業・ 経済 活動	・自然災害による設備への影響 ・雪不足によるレジャーや観光への影響	・災害発生後の事業の早期復旧や継続のための備え ・災害時の多言語支援
国民 生活・ 都市 生活	・自然災害によるインフラへの影響 ・地域の伝統行事・地場産業などへの影響	・インフラ・ライフラインの保全対策 ・伝統行事や地場産業に影響する桜や紅葉などの生物季節の観測

出典：気候変動適応についてのスライド集（気候変動適応情報プラットフォーム）を編集して作成
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/tools/presentation.html>

また、「グリーンインフラ」を活用した「適応」の取組も進められています。

グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な社会資本整備やまちづくりを進める取組です。

緑地の保全による保水・浸水機能の向上（水害リスクの軽減）や、ビルの屋上緑化・壁面緑化によるヒートアイランド現象の緩和の事例などが挙げられます。

グリーンインフラの活用は、生物多様性の保全や、住み心地の良さの向上、地域振興などにもつながります。



グリーンインフラの活用例

出典：国土交通省国土技術政策総合研究所
 「道路空間におけるグリーンインフラ」
<https://www.nilim.go.jp/lab/dcg/kadai10-greeninfra.html>

Ⅲ 印西市における「適応」の取組

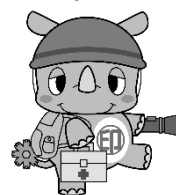
印西市では、令和7（2025）年に策定した「いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050*」の第6章に「印西市地域気候変動適応計画」を位置づけ、市・市民・事業者が取り組む事項を示しています。また、以下の取組を実施しています。

<印西市が行っている「適応」の取組例>

- ・熱中症に関する情報や対策方法などの発信
- ・クールシェア（涼み処として公共施設や商業施設を活用する取組）の推進
- ・「印西市防災ポータルサイト」での防災情報の発信
- ・高温に伴う農作物等の被害防止と技術対策についての情報提供 など


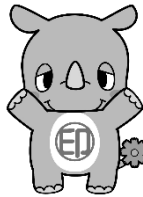



◇ 印西市防災ポータルサイト
ハザードマップ、避難場所、防災総合ガイドブック、そのほか防災や災害時に役立つ情報を掲載しています。



個人が取り組めることとしては、「知ろう」「行動しよう」「参加しよう」の3つのアクションが挙げられます。

個人が取り組める「適応」の例

アクション	詳細
知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動適応について学ぶ  <p>◇ 気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT） 気候変動適応に関する情報、統計データや、個人として取り組むことができる事例などが掲載されています。</p>
行動しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症や感染症への予防対策を実施する ・「防災気象情報」を活用し、大雨や洪水などの情報に注意する ・ハザードマップを活用して避難経路を確認する ・災害時に備えた食料品などの備蓄を行う 
参加しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関するイベントやワークショップに参加する ・システムを活用して、身近な生きものや自然環境の情報共有に努める  <p>◇ いきものログ（環境省自然環境局 生物多様性センター） 環境省をはじめ、様々な組織や個人が持っている生きもの情報を集積し、共有するシステムです。ユーザー登録をすると、報告や調査への参加ができます。</p>

出典：気候変動適応についてのスライド集（気候変動適応情報プラットフォーム）を基に作成
(<https://adaptation-platform.nies.go.jp/tools/presentation.html>)